

# 【クレーム情報】

## ドライクリーニングでの際つき

これからの季節、冬物衣料に多くなる中綿やダウンを使った製品には、ドライ洗剤などが残留して際つきが生じる事故が目立つようになる。今回は、この際つきについて紹介する。

### 事故の状態

前立てやポケット口、袖口などの縫い目部分に沿って黒く濡れたような状態のシミが生じている。

### 原因

脱液後に残留していた洗浄液が乾燥の段階で縫い目に移動、集中し、ドライ洗剤を主体とする溶剤中の不揮発性成分が濃縮されたような状態となりシミになったもの。

縫い目は、乾燥が遅れるためにドライ溶剤が移動、集中しやすい。またシミに水をスプレーすると速やかに吸収して濡れた状態になることから、シミの成分がドライ洗剤を主体にしていることが推定できる。

このような現象は、洗浄液が浸透しにくく、また浸透した洗浄液が抜けにくい性質をもつ樹脂コーティング製品や高密度織物製品などに発生しやすい。特に、中綿や羽毛を使ったキルティング製品は、洗浄液の残留量が多くなるためさらに発生しやすい。

### 事故の防止対策

ドライ洗剤の残留をなくすことが絶対条件だが、特に石油系ドライの場合には1浴循環式のシステムが基本になっているため、ドライ洗剤をすすぎ出す工程を実際上、採ることができず、完全な防止は困難。適正な溶剤管理を行い、できる限りシミ発生を軽減することが基本となる。

また、水洗いが出てくるものであれば、お客様に説明の上、水洗いを選択するのも一つの方法。

主なポイントは次の通り

●溶剤の酸価と着色状態を管理しながら常に清浄な状態を保つ。

石油系ドライでは、パウダーやろ紙などによる過剰と、活性炭や脱酸剤などによる汚れの吸着により溶剤を清浄化しているが、フィルター性能の低下や能力不足、吸着性のない油性汚れなどのため、すべての汚れを完全にフィルターで捕捉することは不可能。しかし、これらの溶剤中の汚れもシミの発生原因になることから、やはり適正な溶剤が必要。

●洗浄時間を適正に設定する。

1浴フィルター循環による洗いを基本とする石油系ドライでは、汚れがフィルターで完全に除去された時点で洗浄を完了するのが理想であり、洗浄時間は、フィルターで汚れが十分に除去されるよう考慮して設定する。

●脱液を十分に行い汚れた洗浄液の残留量をできる限り少なくする。

●汚れや加工剤などが部分的に集中しないような乾燥方法を工夫する。

### 事故防止システムで検索

日本繊維製品・クリーニング協議会が運営する「クリーニング事故防止システム」で、石油系ドライ処理で、ドライ洗剤の残留がシミの原因となった事例は12件(11月30日現在)。

品物の内訳は、ダウンジャケットとボンディング加工のコート各3件、コーティング加工のコート2件、ナイロンのコートとジャンパー各1件、その他2件となっている。際つきの生じやすい品物の見分けは、それほど難しくないことが分かる。

事故防止システムの利用には、日本繊維製品・クリーニング協議会への入会が必要です。詳細は、日本繊維製品・クリーニング協議会事務局にお問い合わせください。

TEL. 03(5362)7201

▼シミの原因は、ドライ洗剤を主体とする溶剤中の不揮発性成分。  
このような状況を「際つき」とい、中綿、コーティング、高密度  
織物など洗浄液が抜けにくい製品に生じやすい。



▲ポケットの縫い目に沿って、黒い  
シミのようなものが生じている。

- 品名…中綿入りジャンパー
- 素材…表地と裏地・ナイロン 100%  
中綿・ポリエステル 100%

■取扱い絵表示 

■処理方法…石油系ドライクリーニング、洗浄条件や乾燥方法  
などの詳細は不明。